群教セ	G11 - 03
	平21.241集

仲間として認め合える児童を育成する学級活動の工夫

――「学級生活づくりの指導のめやす」を踏まえた年間指導計画の作成を通して ――

長期研修員　　金井　仁史

《研究の概要》

本研究では、仲間として認め合える児童を育成するために、「学級生活づくりの指導のめやす」を踏まえた学級活動年間指導計画を作成した。本年間指導計画では、「学級生活づくりの指導のめやす」と共に、低・中・高学年の発達の段階を踏まえ、目指す内容や児童の姿を明確にした。また、各学期の重点活動に話合い活動と体験活動を関連付けた活動を取り入れ、思考の深まりや話合い活動の活性化を図るなどの工夫をしたものである。

キーワード　【学級活動　小学校　年間指導計画　話合い活動　体験活動】

Ⅰ　主題設定の理由

児童が生活のほとんどを過ごす学校とは、実社会を生きるための人間関係の基礎・基本を学ぶ重要な場である。その学校の中で、自分に自信がもてず、集団の中に入ることができない児童や集団の中にいても人間関係に不安を感じたり、ストレスを抱いたりしている児童も少なくない。そんな人間関係が希薄化した現代の児童にとって、集団で活動することを通して人との適切な関係をつくることが大きな課題となっている。

新学習指導要領では、小学校特別活動の目標によりよい人間関係を築くことが新しく明記され、人と人とが互いに尊重し合いながら、よさを認め合うような関係づくりが求められている。また、平成21年度群馬県学校教育の指針では、話合い活動や体験活動の重視が明記され、仲間と共に活動をしているという充実感がもてるような役割や組織の工夫が必要とされている。

協力校の児童の実態を見ると、一見、温かい雰囲気で人間関係を築いているように思われるが、自ら人とのかかわりをもとうとしないため、好ましい人間関係が築けない児童もいる。また、ただ一緒に活動しているだけの関係にとどまり、互いに認め合い相手を思いやるまでの関係になっているとは言えない。さらに、児童が、自ら役割を果たし、協力して学級や学校におけるよりよい生活をつくろうという意欲をもつまでには至っていないと考える。

児童は、相手を思いやり、よさを認め合うなど、かかわりを深めることで、互いを受け入れることができる。そして学校や学級におけるよりよい生活をつくろうとする話合い活動や体験活動の中で、一人一人が役割を果たし、協力して、目標を達成した充実感を共有する経験を積み重ねることによって、互いを仲間として認め合うことができると考えた。

そこで、本研究では、学期ごとの「学級生活づくりの指導のめやす」を設定すると共に、それらを踏まえ、学期ごとの指導のめやすに合わせた話合い活動と体験活動を取り入れた年間指導計画を作成する。また、低・中・高学年の発達の段階を踏まえ、目指す内容や児童の姿を明確にする。さらに、指導のめやす及び各学年の発達の段階で目指す内容を基に重点内容を設定し、重点化した活動を各学期に位置付ける。児童は、話合い活動による集団決定を行い、体験活動を実施し、このことを基にした自己決定を行うことによって、自分の学級生活や人間関係を見直すことができる。そして、友達と共に考え、協力して活動する経験を通して、相手を思いやり、よさを認め合うなど、人とのかかわりを深めると共に、目標を達成した充実感を味わい、仲間として認め合おうとする気持ちをはぐくむことができると考える。このように、「学級生活づくりの指導のめやす」を踏まえ、話合い活動や体験活動を年間指導計画に位置付け、人とかかわりを深め、互いのよさを認め合いよりよく伸ばし合う経験を積み重ねることによって、仲間として認め合える児童を育成することができると考え、本主題を設定した。

Ⅱ　研究のねらい

人とかかわりを深め、互いのよさを認め合いよりよく伸ばし合う経験を計画的に積み重ね、仲間として認め合える児童を育成するために、各学期ごとの「学級生活づくりの指導のめやす」を踏まえ、話合い活動と体験活動を取り入れた年間指導計画を作成する。

Ⅲ　研究の内容

1　仲間として認め合える児童について

仲間とは、相手を思いやり互いを受け入れることのできる関係、互いが役割を果たし、協力し合える関係である。つまり、「仲間として認め合える児童」とは、共通の目的に向かって、一人一人が役割を果たし協力すると共に、相手を思いやり受け入れながら、よさを認め合いよりよく伸ばし合うことのできる児童であると考えた。

2　学級生活づくりの指導のめやすについて

仲間として認め合える児童を育成するために「学級生活づくりの指導のめやす」を設定し、学期ごとの関連を図りながら、取り上げる内容を重点化する。学習指導要領解説特別活動編で例として述べられているように、１学期は「学級の仲間意識を高める」ことをめやすとし、仲間づくりの活動など、学級の人間関係や協力を主とした活動内容を取り上げる。２学期は「一人一人に居場所をつくる」ことをめやすとし、活動や係における役割分担を明確にし、学級の一員としての意識を高める活動を取り上げる。そして３学期は「互いの認め合いを充実させる」ことをめやすとし、個々のよさを生かした活動を行うなど承認と自信を主とした内容を取り上げ、学級への愛着を深める。

3　年間指導計画の作成について

(1)　年間指導計画作成上の視点

①　学級活動の指導のねらいや計画委員への指導などを明記し、学習指導要領解説特別活動編において低・中・高学年の発達の段階ごとに示された指導のめやすを基に、低学年では「仲良く助け合う」こと、中学年では「協力し合う」こと、高学年では「信頼し支え合う」ことを目指す児童の姿のポイントとし、６年間で育てたい児童の姿を教師が共通認識して指導できるようにする。

②　「学級生活づくりの指導のめやす」を具現化するために、学期ごとのめやすを具体的に示した重点内容を設定し、重点内容に即した議題や題材を取り上げる。

③　「学級生活づくりの指導のめやす」を目指した活動の中心として、各学期ごとの活動の中に、重点活動を位置付ける。重点活動については、集会活動を中心とし話合い活動や体験活動を行い、友達と共に考え協力して活動する経験を通して相手を思いやりよさを認め合うなど、人とのかかわりを深めることができるようにする。

④　取り上げる議題や題材は、時期や学校行事、児童会活動等との関連を図り、児童の興味や意欲を喚起できるように配慮しながら選定する。

⑤　議題や題材は２学年に共通する内容と主として各学年で指導する内容に分け、一緒に記載しておく。それによって、学級の集団としてのまとまりや人間関係などの育成状況の課題などを踏まえた弾力的な指導ができるようにする。

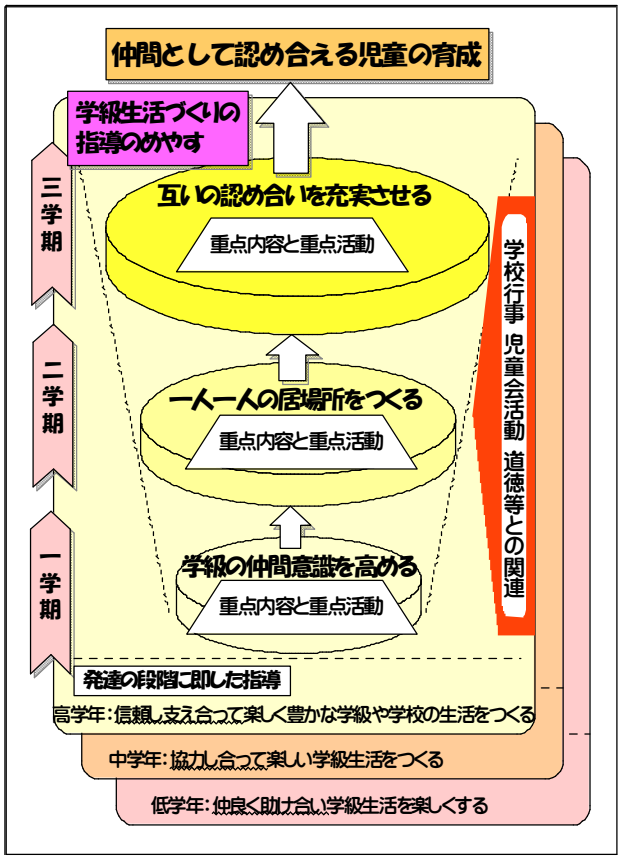


図１　研究構想図

(2)　重点内容と重点活動について

各学期の指導のめやすを具現化するための中心として実施する重点活動は、活動内容（１）の集団決定と体験活動、及び活動内容（２）の自己決定の二つからなる。（１）で集会活動の計画を集団決定し、実際の活動を行う。そして、実践した体験活動の成果を生かして（２）の話合いの題材を決め、自己決定を行う。この話合い活動と体験活動を関連付けた活動を重点活動に取り入れ、年間指導計画に位置付け実施していくことによって、指導のめやすと重点内容を意識した活動が実践できる。さらには、体験に基づいた自分の考えをもち、友達の意見と比べながら考え発言するなど、話合い活動の活性化につながると考えた。また、友達の意見を受け入れることや友達のよさに気付き認める、相手を思いやるなど、友達とのかかわりを深め、互いを受け入れることを重点活動全体を通して意識していくことによって、互いのよさを認め合いよりよく伸ばし合う経験を積み重ねることができると考える。

なお、低学年の段階では、教師が司会の役割を受けもち、仲良く助け合って話合い活動を進めたり、正しい方法、自分に合った方法を選んで目標をもって努力するなど、低・中・高学年の発達の段階や児童の実態に合わせ、集団決定や自己決定をしていく（図２）。

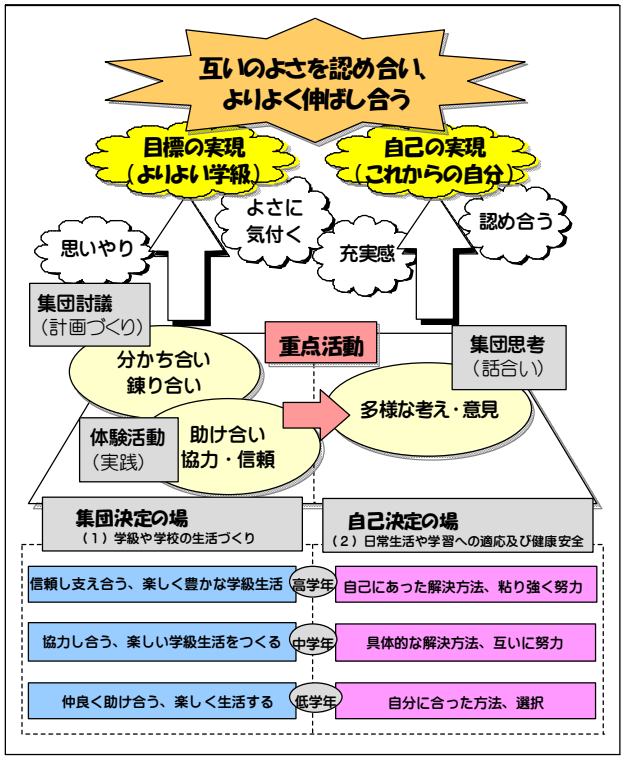


図２　話合い活動と体験活動を関連付けた活動

○　１学期の重点内容と重点活動

新しい学級のスタートとして、友達と仲良くなり、仲間として互いを認め、尊重することを目指し、なかよし会や仲間づくりの遊びなど、楽しい遊びの体験を中心とした活動を取り入れた。低学年では「仲良く助け合いながら学級生活を楽しく送る」を、中学年では、「思いやりをもって協力し合い、決めたことをやり遂げる」、高学年では「相手の立場を考え支え合い、目標や目的を達成する」ことを通して充実感を感じ、良好な人間関係を築く。

○　２学期の重点内容と重点活動

毎日の生活や様々な行事、活動を通して人間関係が固定化されてくる時期である。そこで、周りからの信頼や個々の責任感を高めることを目指し、お楽しみ会や異年齢交流などの集会活動を計画し、自分の任された仕事にしっかり取り組み、役割を果たすことを活動に取り入れた。低学年では「みんなのために働く」を、中学年では「学級のために進んで働く」、高学年では「自発的に一人一人が役割を果たす」ことを意識して活動することを通して、学級の一員としての意識を高め、よりよい学級をつくる。

○　３学期の重点内容と重点活動

１年間のまとめの時期であり、今までの友達同士のかかわりから、ある程度相手のよさが分かり、認め合える関係が築けていると思われる。そこで、さらに互いを認め合いよりよく伸ばし合うことを目指し、感謝の会や自他の成長を振り返る活動など、一人一人のよさや特徴を再認識し交流できる活動を取り入れた。低学年は、「相手のよいところを認め、仲良くする」、中学年は「自分のよいところを伸ばそうとする」、高学年は「互いのよさを生かし、信頼し合う」ことを意識して活動することによって友達や学級への愛着を深め、仲間として認め合える人間関係を築く。

低・中・高学年における各学期ごとの重点内容と重点活動の議題や題材は、図３に示したとおりである。また、重点活動の具体的な内容については、高学年の例を示したが、その他の各学年、各学期の重点活動についても、事前、事後指導を含めた指導計画を作成し、話合い活動と体験活動を関連付けた活動ができるようにする。

	低学年	中学年	高学年
３学期の指導のめやす	互いの認め合いを充実させる		
重点内容	相手のよいところを認め、仲良く活動し、学級への愛着を深める。	自分のよいところを伸ばそうとしながら活動し、学級への愛着を深める。	互いのよさを生かし、信頼し合いながら活動し、学級への愛着を深める。
重点活動	・なんでもじまん大会をしよう（1） ・あそびをしょうかいしよう（1） ・がんばりをはっけんしよう（2）	・１／２成人式をしよう（1） ・感謝の気持ちを伝えよう（1） ・１年間を振り返って（2）	・お別れ会をしよう（1） ・まとめの集会をしよう（1） ・卒業に向かって（2） ・もうすぐ6年生（2）
２学期の指導のめやす	一人一人の居場所をつくる		
重点内容	みんなのために働くなどして、学級の一員としての意識を高める。	学級のために進んで働くなど学級の一員としての意識を高める。	自発的に一人一人が役割を果たし、学級の一員として意識を高める。
重点活動	・おたのしみかいをしよう（1） ・なかよくたすけあうクラス（2） ・ともだちのために（2）	・室内オリンピックをしよう（1） ・おたのしみ会をしよう（1） ・友達のため、自分のため（2）	・下級生との交流をしよう（1） ・学級集会をしよう（1） ・クラスのためにできることを考えよう（2）
１学期の指導のめやす	学級の仲間意識を高める		
重点内容	仲良く助け合いながら、学級生活を楽しく送ることの充実感を得る。	思いやりをもって協力し合い、決めたことをやり遂げる充実感を得る。	相手の立場を考え支え合い、目標や目的を達成した充実感を得る。
重点活動	・なかよし会をしよう（1） ・あたらしいともだちとあそぼう（1） ・すてきなことばをふやそう（2） ・みんななかよくしよう（2）	・学級のはたをつくろう（1） ・学級の歌をつくろう（1） ・友達となかよくしよう（2） ・新しい友達をつくろう（2）	・仲間づくりの遊びをしよう（1） ・男の子、女の子（2） ・男女の協力（2）

〈３学期〉

重点活動	お別れ会をしよう（1）	卒業に向かって（2）
6年	①計画委員を中心にお別れ会の内容について話合い、計画を立てる。 ②互いのよさを生かしながら、お別れ会を実施する。	○小学校での活動を振り返り、自分のがんばりを交流し合い、どんな中学生になりたいかを話し合う。
重点活動	まとめの集会をしよう（1）	もうすぐ6年生（2）
5年	①1年間でがんばった取組ごとにグループを作り、発表の計画を立てる。 ②個々のよさを生かしながらがんばった取組について発表し、意見交流をする。	○6年生の仕事や活動を思い出し、リーダーとして必要な心構えについて話し合う。

重点活動の内容を具体的にすると

〈２学期〉

重点活動	下級生との交流をしよう（1）	クラスのためにできることを考えよう（2）
6年	①計画委員を中心にどんなことができるか、具体的な内容について話合い、決定する。 ②自分の役割を意識し、計画に従って下級生のためになる集会を実施する。	○集会活動の取組で見せたよさを学級のために生かす方法を考え、実践する。
重点活動	学級集会をしよう（1）	クラスのためにできることを考えよう（2）
5年	①計画委員を中心に学級がもっと仲よくなるためにできる活動について話合い内容を決定する。 ②自分の役割を果たし、友達とのかかわりを深めながら、集会を実施する。	○集会活動の取組で見せたよい行動について出し合い、自分ができることについて考え、実践する。

〈１学期〉

重点活動	仲間づくりの遊びをしよう（1）	男女の協力（2）
6年	①計画委員を中心に仲間づくりの遊びについて内容を話し合い、計画を立てる。 ②相手の立場に立って考え計画に従って仲間づくりの遊びを実施する。	○仲間づくりの遊びの体験をもとに、協力し合いながら活動する方法について考え、実践する。
重点活動	仲間づくりの遊びをしよう（1）	男の子、女の子（2）
5年	①計画委員を中心に仲間づくりの遊びついて話合い、内容を決定する。 ②決定した遊びを協力して楽しく実施する。	○仲間づくりの遊びの体験をもとに、男女それぞれの特徴とよさについて考える。

図３　各学期の指導のめやすと重点内容、重点活動

(3)　年間指導計画の例

学級活動　高学年（５・６年）年間指導計画

＊ **太字**は学級生活づくりの指導のめやすにかかわる重点活動

指導のねらい	（１）学級や学校の生活づくり 学級の充実と向上を目指して学級全員で話し合い、決定し、実践していく活動を通して、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度を育てる。 （２）日常の生活や学習への適応及び健康安全 日常の生活や学習への適応及び健康安全など学級全員に共通する問題について話し合い、自己決定し、個々で実践する活動を通して、健全な生活態度を育てる。 （３）道徳教育とのかかわり ・法やきまりの意義を理解し、集団における役割と責任を果たすとともに、信頼し支え合って楽しく豊かな学級や学校生活をつくる。 ・悩みや葛藤等の心の揺れ、人間関係の理解等の課題を積極的に取り上げ、自己の生き方についての考えを一層深める。 【道徳の内容項目２（３）（５）４（３）】
計画委員への指導等	○学級活動の計画委員会を組織し、輪番で役割を担当する。そして次のような手順で学級活動の準備を行う。 ①問題の収集と整理　…　提案ポスト、学級日誌、朝の会、帰りの会、その他の活動から解決したい問題を集め、整理して学級全員に提案できるようにする。 ②議題の決定　…　目標を達成したり、問題を解決したりするために話し合うべき議題（学級生活に関するもの、全員の共通の課題に関するもの、自治的な活動に関するもの、児童の力で解決できるもの）を決める。 ③計画・準備　…　(1) については教師の助言を受けながら、計画委員会が活動計画を作成し、自主的に進められるようにする。 (2) については教師の指導が中心になるが、役割や準備の一部を計画委員が分担するなど児童が自主的に活動できるようにする。
学級活動の内容	〈高学年〉 学級を単位として、信頼し支え合って楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるとともに、日常の生活や学習に自主的に取り組もうとする態度の向上に資する活動を行う。

道徳とのかかわり
学級活動で取り扱うねらいについて明記

計画委員への指導
話合い活動に至るまでの流れを記述

発達の段階に即した指導のめやす　【学級や学校生活づくり】

〈話合い活動〉	〈係活動〉	〈集会活動〉
・年度当初に計画委員会について十分に指導し、話合いのための手順や役割について理解させ自主的に活動できるようにする。 ・教師の助言を受けながら児童自身が活動計画を作成し、進行等の役割を輪番で受けもち、話合いの方法など工夫して運営できるようにする。 ・学級のみならず、学校生活にまで目を向け、自分の言葉で建設的な意見を述べ合えるようにし、多様な意見のよさを生かして、楽しい学級や学校生活を送るためによりよい集団決定ができるようにする	・自分のよさを積極的に生かせる係に所属し継続的に活動できるようにする。 ・高学年としてふさわしい創意工夫のできる活動に重点化するなどして、信頼し、支え合って楽しく豊かな学級や学校生活をつくることができるようにする。	・児童会活動やクラブ活動の経験を生かして学級生活を楽しく豊かにするための活動に取り組めるようにする。 ・話合い活動によって、お互いのよさを生かしたり、反省を生かしたりして、信頼し支え合って創意工夫のある集会活動をつくることができる。

話合い活動、係活動、集会活動それぞれの発達の段階に即した指導のめやす

（１）学級や学校の生活づくり ＊主に○は６年、◇は５年、◎は共通で取り上げる		（２）日常生活や学習への適応及び健康安全　●は短時間の内容 ＊主に○は６年、◇は５年、◎は共通で取り上げる			主な学校行事等 道徳・他教科との関連
予想される議題例（２０時間）	議題のねらい	月	題材（１５時間）	題材のねらい	
【学級生活づくりの指導のめやす　１学期】			**学級の仲間意識を高める**		・始業式 ・入学式 ・委員会編成 ・縦割り団結団式 ・交通安全教室
◎学級の目標と組織を決めよう	◎自分たちが目指す学級の姿を考えるとともに必要な係を考えよりよい学級にしようとする意欲を高める。	4・5	◎６年生になって（５年生になって）	○６年生になってがんばっていきたいことを話し合い、自分のめあてを決定し、自らを向上させて生活をする。 ◇５年生になってがんばっていきたいことを話し合い、自分のめあてを決定し、よりよい生活をしようとする	
◎１年生を迎える会を盛り上げよう	○最上級生としての自覚をもって、会の運営や自分の役割を果たそうとする。 ◇上級生として６年生を助け優しく１年生を迎え入れようとする意欲を高める。		◎安全な自転車の乗り方（カ）	○校外で事故の被害に遭う危険があることを知り事故に遭わない工夫について話し合い、実践しようとする。 ◇事故の危険を知り、事故に遭わない工夫について話し合う。	（道徳） ◇友の命 ○幸せを送るリーダーに
◎学級活動の計画を立てよう	○学級や学校生活の向上を目指して計画をつくる。 ◇学級や学校生活の向上を目指して、取り組む活動を考える。		○気持ちをこめたあいさつ（ウ） ◇みんなで仲良く（ウ）	○気持ちよく生活するためにはあいさつが大切であることを知り、互いに思いやりをもちながら生活する。 ◇クラスのみんながもっと仲良くするための改善点を話し合い、自分の取組みについて考える。	
○修学旅行に行こう	○修学旅行を通して互いに協力したり助け合ったりする意欲を高める。				
◇宿泊学習に行こう	◇宿泊学習を通して、互いに協力し、助け合うことの大切さを実感する。		●グループの協力		
◎仲間づくりの遊びをしよう（２時間） **重点活動１**	○友達と仲良くなるために遊びの集会を計画し、相手の立場に立って協力し、実践する。 ◇友達を仲良くするために遊びの集会を計画し、協力して楽しく実践する。	6・7	◎家庭学習について	○学習についての習慣を見直し、工夫して家庭学習に取り組む気持ちを高め、実践する。 ◇学習についての習慣を見直し進んで家庭学習に取り組む気持ちを高める。	・修学旅行 ・宿泊学習 ・クラブ編成 ・終業式
			○男女の協力（ウ） **重点活動２** **◇男の子女の子（ウ）（カ）**	○異性と協力し合うことのよさや必要性をもとに接し方について話し合い、互いに支え合いながら生活を送る。 ◇男子と女子の発育の違いについて正しく理解し違いを認め合おうとする。	（道徳） ○土石流の

2学年に共通した議題とねらい

2学年に共通した議題と異なったねらい

学年ごとの題材とねらい

◎雨の日の過ごし方を考えよう ◎１学期の反省をしよう	○校舎内で安全に楽しく過ごすための手だてを考え下級生の見本となろうとする。 ◇校舎内で安全に楽しく過ごすための約束を考え、実行しようとする。 ◎１学期にがんばったことを振り返り、夏休みや２学期のめあてをもつ。		◎夏休みの過ごし方（ア）（イ）	○夏休みの計画について課題を出し合い学習や生活の課題解決に向けた計画を立てる。 ◇夏休みの計画について課題を出し合い自分のめあてをもって有意義な休みを過ごそうとする意欲をもつ。	中で救われた命 ○言葉のおくりもの
			●プールの約束		
【学級生活づくりの指導のめやす　２学期】			**一人一人の居場所をつくる**		
◎夏休み報告会をしよう ◎クラスの目標と組織を見直そう ◎係活動を見直そう **重点活動3** **○下級生との交流をしよう（２時間）** **①計画づくり** **②集会活動**	◎夏休みのめあてを受け、がんばって取り組んだことを振り返り、学校生活に生かそうとする。 ◎１学期を振り返り、係と活動の内容について考え、自主的に取り組もうとする意欲を高める。 ○係活動について振り返り、各係の仕事の工夫について話し合い、よりよい活動にしようとする。 ◇各係の仕事について発表し合い、活動を工夫しようとする。 ○リーダーシップを発揮し、役割を果たし、協力して活動しながら、学級の一員としての意識を高める。	8・9・10月	○けがの防止と手当て（カ） ◇けがの防止（カ） ◎そうじをがんばろう（エ） ○学校図書館を利用しよう（オ） ◇読書会をしよう（オ）	○日常生活でけがの危険がある場所について出し合い、予防方法と手当てについて考える。 ◇学校でけがの危険のある場所について出し合い予防方法について考える。 ○毎日のそうじの取組を見直し、よりよい活動にするために話し合い、自分の取組を考える。 ◇毎日のそうじの取組を見直し、下級生の見本となる活動にするために話し合い、自分の取組を考える。 ○図書館の利用方法や活用方法について司書の話を聞き、理解することによって知識を得ることへの興味を高める。 ◇本に親しみ、読書の幅を広げようとアドバイスをし合う。	・始業式 ・運動会 ・縦割り遠足 （道徳） ◇かれてしまったヒマワリ ◇心のレシーブ ○あの日の私と今の私
			●歯磨きチェック ●陸上練習		
◇学級集会をしよう（２時間）	◇役割を果たし、協力して会を計画・実施していくことによって、学級の一員としての意識を高める。	11・12月	**◎クラスのためにできることを考えよう（ウ）** **重点活動4**	**○学級生活の向上に役立つ行動について考え、学級への所属感を高め、よりよい学級生活を送ろうとする意欲を高める。** **◇友達のよさを見付け、学級のために自分ができることを考え、実行しようとする。**	・校外学習 ・なかよし月間 ・持久走大会 ・終業式
○児童会活動に積極的に参加しよう ◇学級の問題について考えよう ◎持久走大会に向けて ◎２学期の反省をしよう	○児童会活動や学校の問題について話し合い、解決しようとする。 ◇学級の問題について話し合い、よりよい生活のために自分たちで課題を解決しようとする。 ○積極的に練習に取り組み、体を鍛えようとする意識をもつ。 ◇自分のペースでできる練習計画を立て、学級全体として体力の向上を目指そうとする。 ◎２学期にがんばったことを振り返り、冬休みや３学期のめあてをもつ。		◎かぜの予防について（カ） ○自分の将来に向けて（ア） ◇冬休みの計画を立てよう（ア）（イ）	○かぜを予防する方法を知り、自分の取組を考え、生活の中で実践しようとする。 ◇かぜを予防する方法を知り、生活の中で実践しようとする。 ○自分の将来や中学校での生活に向け不安や楽しみについて話し合い、共有することで今できることを考える。 ◇冬休みの計画について課題を出し合い、学習や生活の課題解決に向けた計画を立てる。	（道徳） ○明日香と弥生
			●睡眠について		
【学級生活づくりの指導のめやす　３学期】			**互いの認め合いを充実させる**		
◎クラスの目標と組織を見直そう ○クラスの十大ニュースを選ぼう。 ◇１年間の反省をしよう **○お別れ会をしよう（２時間）** **重点活動5** **◇まとめの集会をしよう（２時間）**	◎２学期を振り返り、係と活動の内容について考え、自主的に取り組もうとする意欲を高める。 ○１年間のできごとを振り返り、楽しい思い出を出し合うことによって友達との結び付きを再確認する。 ◇１年間の学級生活を振り返り、交友関係を深めるために必要なことを考える。 ○それぞれのよさを生かし、協力して集会を行うことによって、学級への愛着と小学校生活への充実感を味わう。 ◇自分たちががんばってきたことや学級の思い出を振り返ることによって、１年間の学級生活への愛着と充実感を味わう。	1・2・3月	○給食に感謝しよう（キ） ◇朝食の大切さ（キ） **重点活動6** **○卒業に向かって（ア）** **◇もうすぐ６年生（ア）** ◎春休みの計画を立てよう（ア）（イ）	○食事の大切さについて知り、給食にかかわる人たちへの感謝の気持ちを高める。 ◇自分の生活を振り返り、朝食の大切さに気付き、おいしく食べられるように工夫する。 ○小学校生活を振り返り、卒業と中学校入学までの心の準備や心構えについて考える。 ◇６年生が果たしている役割を知ると共に最高学年としての自覚をもつ。 ○春休みの計画について課題を出し合い学習や生活の課題解決に向けた計画を立てる。 ◇春休みの計画について課題を出し合い自分のめあてをもって有意義な休みを過ごそうとする意欲をもつ。	・始業式 ・卒業を祝う会 ・卒業式 ・終了式 （道徳） ◇残った仕事
			●新年の誓い ●災害から身を守る		

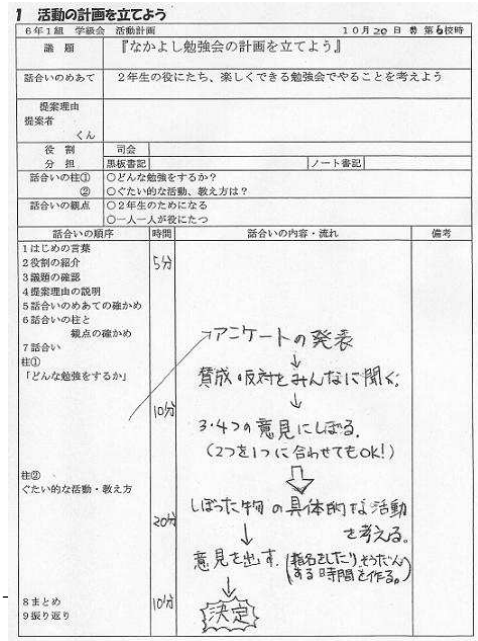
Ⅳ　実践の概要

今回、重点活動として年間指導計画に位置付けた議題や題材によって、指導のめあてを達成させると共に話合い活動と体験活動を関連付けた活動を行い、話合い活動を活性化させようと考え、６年生２学期の重点活動の授業を行った。また、計画委員を中心とした活動を行い、児童のアイデアを生かし、自主的に取り組めるようにした。

１　活動計画と実践の様子

(1)　実践授業１

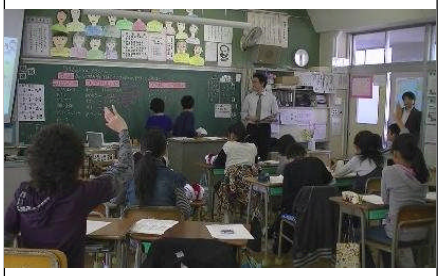
対象	小学校６年生	単元名	「下級生との交流をしよう」
期間	平成21年10月20日・30日　各１時間	授業者	長期研修員　金井　仁史
目標	相手を思いやり互いを受け入れながら交流の体験活動を計画し、実践することを通して、最上級生としてリーダーシップを発揮すると共に、役割を果たし協力して活動しながら、学級の一員としての意識を高める。		

	主な活動内容	実践の様子 **◎は話合いと体験を関連付けた活動、計画委員の活動にかかわる内容と様子**
事前	**◎計画委員により議題を決め、話合い活動の計画を立てる。** **◎事前にアンケートを取り、案を作成する。** 図４　計画委員による話合い活動の様子	**◎６名の計画委員によって活動を進めた。初めての活動であり、戸惑っていたが、一人一人に意見を聞きながら、議題を決定した。** **◎話合い活動の計画は教師側から例を提示し、話合いの基本を把握させた上で詳細な内容について決定していった。活動内容は三、四つに絞ること、具体的な活動内容を話し合うことに重点を置き時間を取った。話合いを円滑にするためにグループで討議することを決めた。** **◎司会者は事前のアンケートから児童の発言を予想し、対応を考えるなど意欲的に準備を行った。**  １　活動の計画を立てよう ６年１組　学級会　活動計画　　10月20日　第６校時 議題：『なかよし勉強会の計画を立てよう』 話合いのめあて：２年生の役にたち、楽しくできる勉強会でやることを考えよう 提案理由 提案者　くん 役割分担：司会／黒板書記／ノート書記 話合いの柱①：○どんな勉強をするか？ ②：○ぐたい的な活動、教え方は？ 話合いの観点：○２年生のためになる　○一人一人が役にたつ 話合いの順序：１はじめの言葉　２役割の紹介　３議題の確認　４提案理由の説明　５話合いのめあての確かめ　６話合いの柱と観点の確かめ　７話合い　柱①「どんな勉強をするか」　柱②ぐたい的な活動・教え方　８まとめ　９振り返り 時間：５分　10分　20分　10分 話合いの内容・流れ：アンケートの発表 → 賛成・反対をみんなに聞く → 3・4つの意見にしぼる。（2つを1つに合わせてもOK!） → しぼった中の具体的な活動を考える。 → 意見を出す。（名ざしたり、そうだんする時間を作る。） → 決定 備考 図５　話合い活動計画書
本時①	**「なかよし勉強会の計画を立てよう」** ○話合いのめあて、柱、観点を確認し、活動の目的をつかむ。 ○「なかよし勉強会」の内容について話し合う。	**◎計画委員は自分の役割を果たし、計画に沿って話合い活動を進めた。** ○学習活動は、事前の調査から八つの活動を取り上げ、絞り込んでいった。 ○具体的な内容は、全員が事前に考えてきたことによって、グループでの話合いから具体的な案が挙がったが、練り上げる場面ではなかなか深まる話合いにつながらなかった。再度、錬り合う時間が必要だった。
準備	○各グループごとに役割分担し、準備を進める。 **◎全体のプログラムや役割を話し合う。**	○６年児童、２年児童の希望から「漢字グループ」「計算グループ」「絵の学習グループ」に分かれて、準備を行った。漢字グループは「漢字パズル」を行い、計算グループは、一人一人が役割をもてるように「しりとり計算」と「虫食い計算」の二つの活動をすることとなった。絵の学習グループは、「色づくり」を行うこととなり、朝自習の時間や休み時間を利用し、準備を進めた。 **◎計画委員は、全体の流れを話し合い、全体が盛り上がり、楽しい雰囲気になるように活動的なゲームである「ヘビじゃんけん」を自分たちで考えることができた。**
本時②	**「なかよし勉強会」** 図６　虫食い計算グループ活動の様子 ○計画を基に「なかよし勉強会」を実施する。	**◎計画委員の司会で開催した。「ヘビじゃんけん」では、６年生が２年生とペアになり、リードしながら活動し、最後には自然と輪になった。一体感が感じられ、和やかな雰囲気ができた。** 「漢字パズルグループ」 ６年生が自分たちでつくった問題のカードを示し、できる漢字を２年生が答える活動を計画通りできた。 「しりとり計算グループ」 早く終わった２年生のために自ら補充の問題を作成し、飽きさせないようにしていた。 「虫食い計算グループ」 ６年生が計算方法を丁寧に説明し、理解が不十分な２年生に対して優しく教え、個々への対応ができていた。特に２年生の目線と同じ位置になって支援や説明する姿が見られた。 「絵の学習グループ」 初めに色当てクイズを行うなど工夫し、２年生は楽しく集中して活動でき

	◎全体の司会や指示を行い、会を運営していく。 ○グループで交流し、集会をまとめる。	た。また、窓から日が差し込み、あついだろうとカーテンを閉めてあげるなど、優しい心遣いができる６年生もいた。 ○事後の６年生の感想では、「教えてあげるとちゃんとできるようになってみんな楽しそうだった」など、２年生に勉強を教え分かってもらえたり、役に立った自己有用感を感じたという記述が多く、役割を果たした達成感や満足感を得ることができた。

(2)　実践授業２

対象	小学校６年生	単元名	「クラスのためにできることを考えよう」
期間	平成21年11月6日　１時間	授業者	長期研修員　金井　仁史
目標	相手を思いやり、学級の友達のためになるような言葉や行動を基に、学級生活の向上に役立つ行動について話し合い、考えることによって、お互いを受け入れ、学級への所属感を高め、よりよい学級生活を送ろうとする意欲を高める。		

	主な活動内容	実践の様子 **◎は話合いと体験を関連付けた活動、計画委員の活動にかかわる内容と様子**
事前	○「なかよし勉強会」や普段の生活を振り返り、友達のよいところに気付かせる。 **◎「なかよし勉強会」の活動との関連を図り、事後の反省や感想から、学級の課題を見付け、共有化する。** **◎授業での計画委員の活動について話し合う。**	○「なかよし勉強会」の活動を中心に生活を振り返り、すべての児童が２年生のことを考えて行った活動を見付けた。 **◎「なかよし勉強会」で相手や周りのことを考えて行った活動や思いやりの気持ちが学級では生かし切れていないことを課題とし、クラスのためにできる取組を考えることを次時の題材として決定した。** **◎今回は司会のみの活動とし、様々な意見を出し合う部分とグループによる話合い活動の部分の司会をすることを決めた。**
本時	**「クラスのためにできることを考えよう」** **◎友達のよいところについて気付いたことを挙げる。** **◎クラスのためという観点からよさを見直し、価値について考える。** ○学級がめざす姿を確認し、個々のよさをクラスに生かすことについて話し合い、自分にできることを決める。  図7　話合い活動の様子	○児童が本音で意見を発表していると感じられる場面もあり、課題を自分のこととして捉え、考えている様子を見取ることができた。 **◎映像を見たり、振り返ったりすることで、「なかよし勉強会」との関連を図り、体験に基づいた考えや意見をもつことができた。** **◎よさをクラスに生かすことについて話し合う場面では、助け合う、手伝うなど、学級の友達を思いやる発言が多く発表された。また、学級の合い言葉であり、授業のキーワードである「なかま」という言葉を導き出せた。** ○「なかま」についての認識やイメージを共有できたことは、児童が仲間としてまとまっていくための具体的な手だてを導き出す一助となった。 ○話合い活動の中で、「助けられた人が他の人を助ければ助け合いの輪ができ、仲間になれる」「なかよしグループのみでまとまらず、学級全体で行動すれば信頼が生まれる」などの意見が出され、個から集団への意識が強くなった。 ○事後の児童の感想から、「人の意見になるほどと思うことが多かった」「自分の考えていなかった友達の意見は参考になる」など、共に考えることのよさを感じた。 ○自分の取組やその理由は、表面的な行動ではなく、次のようにクラスの友達のことや相手の気持ちを思いやったものに変容した。 **『困っている人がいたら助ける』** **理由：助けたほうが、相手が困らなくなる。** ↓ **『困っている人がいたら助ける』** **理由：困っている人がいて助けたら、その助けてもらった相手も喜ぶし、それをくり返しやっているとだんだんクラスまでなかまになると思うから。**
事後	○自分が決めたことを一週間集中して実行し、自己評価する。	○毎日の指導は担任に実施してもらった。その様子を伺うと、ほとんどの児童が自己決定した内容を意識して取り組めた。 ○担任の報告から、給食後のゴミの散乱に気付いた児童がゴミを拾い、教室の床にほとんど落ちていることがなくなった。

２　結果と考察

(1)　話合い活動と体験活動を関連付けた活動について

今回の実践授業では、６年生の２学期の重点内容「自発的に一人一人が役割を果たし、学級の一員としての意識を高める」ことを目指した。事前と事後のアンケート結果より、重点活動「下級生との交流会をしよう」「クラスのためにできることを考えよう」を実践したことで、自分たちの考えやアイデアを生かし、実践しようとする気持ちや自分の役割を果たそうとする意識が高まった（図８）。また、実践１の計画づくりの自己評価と実践２の自己決定の自己評価を比較すると、「友

達の考えを自分の考えと比べながら聞けた」の項目で「よくできた」、「できた」の回答が72%から85%と増加した。その中でも「よくできた」の回答は２倍以上になった。

話合い活動と体験活動を関連付けた活動を行い、体験に基づいた自分の考えをもてたからこそ、友達の意見と比べながら聞くことができ、話合い活動が活性化したと考える。

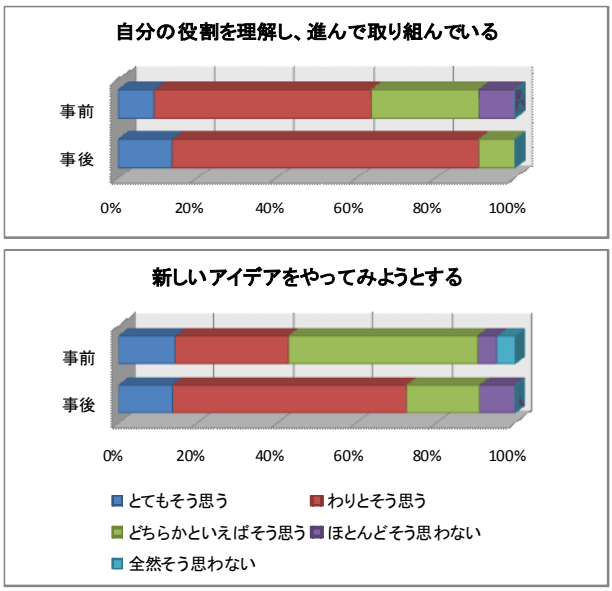


図８　事前・事後のアンケート結果

(2)　計画委員の活動について

実践１では、題材の設定、計画づくり、話合い活動、準備、集会活動とすべての場面に計画委員が中心となってかかわり、活動した。初めはなかなか意見を出せなかったが、徐々に考えを深め、和やかな雰囲気作りのために「ヘビじゃんけん」を行うことを提案するなど、考えを生かし実践しようとする意欲が高まった。また、そのルールの説明では、実際に活動してみせ、２年生が理解しやすいように工夫する姿も見られた。

計画委員は今回の実践授業での活動を通して、話合い活動を運営する力や集会活動への意欲が高まった。今後は、すべての児童が計画委員を経験することで学級全体における話合い活動や体験活動への取組や意識も高まっていくと考える。

Ⅴ　研究のまとめ

１　成果

○　学級生活づくりの指導のめやすを踏まえ、各学期に重点活動を位置付けた年間指導計画の作成を通して、活動するだけの学級活動ではなく、教師が活動のねらいを明確にもち、１年間を見通した活動ができるようになった。

○　低・中・高学年の発達の段階での活動内容や計画委員の取組、話合い活動等のめあてなどを年間指導計画に記載したことにより、各発達段階で身に付ける力を明確にすることができ、６年間の積み上げをしやすくなった。

○　６年生の２学期に重点活動として位置付けた活動は、学級生活づくりの指導のめやすである「一人一人の居場所をつくる」ことを目指し、自分たちの考えを生かし、実践しようとする気持ちや自分の役割を果たそうとする意識を高めるのに有効であった。

○　体験活動と話合い活動を関連付けた活動を取り入れたことで、話合い活動の中で、自分の考えと比較して聞くことができるようになり、話合い活動が活性化した。さらに、友達の意見を受け入れながら児童が本音で話し合い、共に考えることのよさを感じ取ることができた。

２　課題

○　各議題、題材の具体的な活動内容については、重点活動のみとなってしまった。事前・事後の活動を含めた活動内容をより明確にした年間指導計画にすることで、各学校や学級でより活用しやすくなる。

○　道徳とのかかわりについては関連する内容項目と題材名を位置付けるのみとなってしまった。今後はそれぞれの活動で道徳の内容項目と関連させ、どんな道徳的価値を実践に結び付けるかなど、明確に年間指導計画に位置付けていく必要がある。

○　児童が互いのよさを認め合うために、一人一人のよさを生かそうとして活動を児童に任せる部分が多かった。しかし、教師は活動を見守るだけでなく、児童の積極的な活動を促す賞賛の言葉がけやアドバイスを適宜行っていくことで、話合い活動や体験活動が充実し、個々のよさが一層伸長されるものと考える。

〈参考文献〉

・新富　康央　編著　『小学校新学習指導要領の展開　特別活動編』　明治図書（2008）
・杉田　洋　編著　『心を育て、つなぐ特別活動』文溪堂(2009)